

開会あいさつ 越境地域政策研究フォーラム趣旨説明

川井伸一氏（愛知大学学長）
戸田敏行氏（愛知大学三遠南信地域連携研究センター長）

日 時：2023年2月11日（土）10：00～
場 所：愛知大学豊橋校舎（オンライン開催）

○司会（駒木）：皆さま、おはようございます。本日は、土曜日の午前中からご参加いただきまして、誠にありがとうございます。本年度もコロナ禍のなかで、昨年度に引き続き、オンラインでの開催となりました。お聞き苦しい点もあるかと存じますが、ご容赦いただければ幸いです。なお、マイクはミュートでお願いいたします。

それでは定刻となりましたので、ただいまより愛知大学三遠南信地域連携研究センター主催、2022年度「第10回越境地域政策研究フォーラム」を開催いたします。開催に先立ちまして、本学学長の川井伸一より、皆さまにご挨拶をいたします。

○川井：愛知大学学長の川井でございます。おはようございます。フォーラムの開催にあたりまして、一言、ご挨拶をさせていただきます。

本フォーラムは、今回で第10回を迎えることとなります。本学の三遠南信地域連携研究センターが2013年以来、毎年、この時期に同じテーマの「越境地域政策研究フォーラム」を開催して成果を上げてきております。

この一貫した研究のテーマは、言うまでもなく、越境地域の政策をいかに研究し、立案をしていくかということであると理解しておりますが、日本の越境地域が人口減少のもとで、いろいろな多くの課題を抱えていることは、ご案内のとおりです。そのような状況のなかで、いかにそれを解決するか。そのためには、それぞれの個別の地域だけではなく、関連する地域が連携をしていくことが不可欠ではないかと考えております。

この間、政府の政策でも、いわゆる地域創生事業として、「まちづくり」「ひとづくり」「しごとづくり」という課題を追求してまいりました。各地方自治体が

それに沿って政策を展開してきているところです。また、昨年以来、新たにデジタル化を加えた「デジタル田園都市国家構想」も提案されて具体化が取り組まれているところです。

いずれにしましても、日本の各地方、特に越境地域を跨ぐような地方は多くの課題を抱えておりますので、本日のテーマも、それに関連したさまざまな研究の成果が公表されるものと期待しております。このフォーラムが有意義な機会となりますことを期待しまして、私の挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。

○司会：続きまして、当センター長の戸田敏行より、当センターの概要および本フォーラム趣旨について説明させていただきます。お願いいたします。

○戸田：皆さま、おはようございます。第10回になりますが、「越境地域政策研究フォーラム」にお越しいただきましてありがとうございます。名簿を拝見い



スライド1 愛知大学三遠南信地域連携研究センターの歩み

たしますと、海外や全国からご参加いただいております。このフォーラムも10年になりますが、この研究を長くご支援いただき、あるいはご指導いただいている皆さま方にもご参加いただいております、大変感慨深く思ったところでございます。

私からは、当センターのご紹介と本日のフォーラムの趣旨を簡単にご説明申し上げたいと思っております。

三遠南信センターということですが、長くこの研究にご協力をいただいている研究仲間の皆さんにとっては当然のことですが、三遠南信という地域は、愛知県の東三河、静岡県の遠州、長野県の南信州という県境を越えたエリアで、二百数十万の人口になります。後ほどご報告もございます、これは一つの地域政策になっております。

三遠南信センターは、こうした政策化の流れを受けるかたちで、2004年に愛知大学に設立されております。図に示すように、ここまで幾つかの研究テーマを持っております。最初は、国際比較的で越境地域を考えていこうということをおこないました。それから、「GIS」と書いてありますが、データサイエンスとして越境地域を考えていこうということでした。

2013年から越境を直接的に捉え、全国の越境地域とも協働しながら研究していこうということで、「越境地域政策の確立」を目指して、文部科学省共同利用・共同研究拠点の「越境地域政策研究拠点」としてスタートしております。この時点から本日の越境地域政策研究フォーラムも開始されました。

その後、「私立大学研究ブランディング事業」ということで、大学全体として越境地域のマネジメントを考え、縮減する社会に持続性を生み出すことを目標に研究を進めてまいりました。

これが直近の研究ブランディング事業の内容です。詳細はいろいろとありますが、基礎的な基盤研究と実用研究で、実用研究の中には講義になるようなものを含んでいます。

基盤研究は二つのコアで進めております。一つは、計画行政コア。これは、さまざまな地域計画の仕組みやプロジェクトといった側面を研究いたします。それから、地域システムコア。これは先ほど申し上げたデータサイエンスに関することで地理情報システム、GISを基盤にしております。



スライド3 スーパー・メガリージョンと愛知大学

空間的に考えますと、愛知大学は二つのキャンパスを持っていますが、まず豊橋キャンパスで、愛知大学の発祥です。それから、名古屋駅の近傍に名古屋キャンパスがあります。この背景とするエリアが、名古屋市圏と三遠南信地域を持っているということです。

スーパー・メガリージョン。基調講演でもお話し



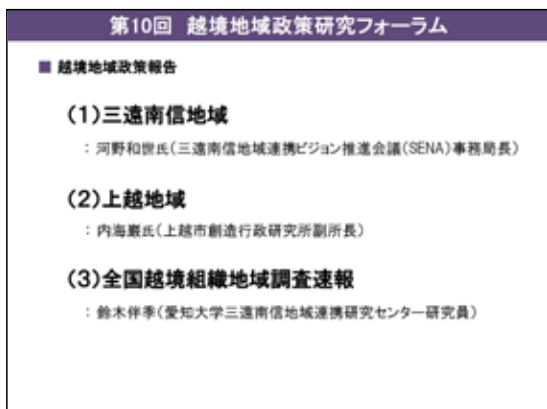
スライド2 私立大学研究ブランディング事業概要

スライド4 第10回越境地域政策研究フォーラム(基調講演)

ただけるかと思いますが、首都圏、近畿圏、そして、この中部圏を連動させたエリアです。国土計画としては、首都圏と近畿圏に挟まれた中部圏を、三遠南信地域と名古屋都心という二つの地域から考えていこうとしておりますが、今日は、特に三遠南信という県境エリアをテーマにしたフォーラムとなっております。

本日のフォーラムは、大きく二つで成り立っております。午前中は、基調講演と越境地域政策の実態をご報告いただきます。基調講演は、東京大学の瀬田史彦先生をお願いいたしまして、「国土計画の可能性と越境地域計画」という題でお話をいただく予定としております。

瀬田先生は、私どもの研究としましては、共同利用・共同研究拠点から長くお世話になっております。ご経験としては、海外の地域計画における教育研究も進めてこられました。その意味で、国際比較のなかで国土計画を位置づけていただけると期待しております。現在、「国土形成計画」という国土計画が策定期に入っておりますので、その観点からもご示唆をいただけると期待しております。

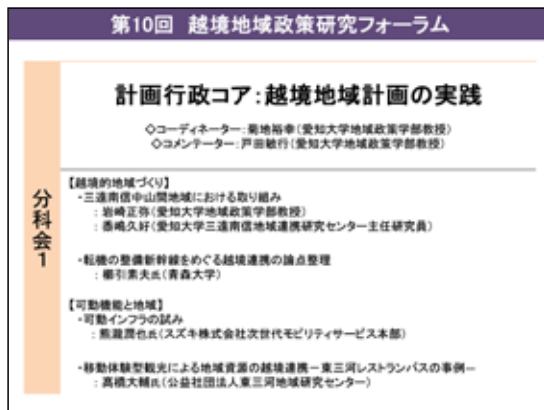


スライド5 第10回越境地域政策研究フォーラム (越境地域政策報告)

次に、越境地域政策の報告で、これは政策の実態です。まず三遠南信地域につきましては、「三遠南信地域連携ビジョン推進会議 (SENA)」という官民の組織がございます。その河野和世事務局長から現在の動きをご紹介いただきます。

それから、上越地域です。これは新潟と長野の県境地域ですが、三遠南信地域から北上していきますと、こちらのエリアになります。上越地域については、上越市の創造行政研究所の内海巖副所長からご報告をいただきます。

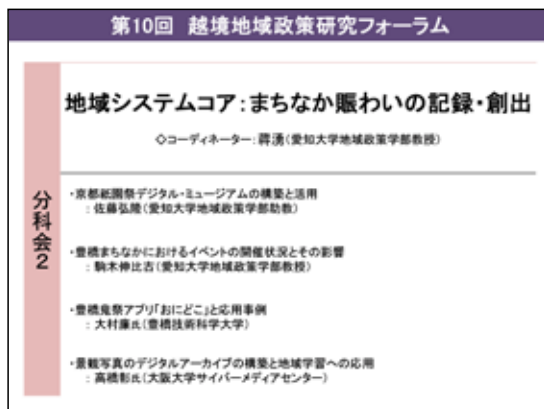
それから、全国の県境を越えるような越境組織があります。2002年から、私どもでは定点的に継続して調査をしております。この直近の調査で、コロナで越境組織がどのように変わるかという状況について、私どもの鈴木研究員から報告させていただきます。



スライド6 第10回越境地域政策研究フォーラム (計画行政コア)

午後ですが、午後は二つの分科会になります。まず計画行政コアの分科会。テーマとしては「越境地域計画の実践」ということでして、サブテーマを二つ持っております。一つは「越境的地域づくり」。これでは三遠南信の中山間部の課題、およびリニア新幹線が先ほどのスーパー・メガリージョンをつくる一つの機軸になっておりますので、特に整備新幹線等の論点を扱っていただきます。これが「越境的地域づくり」です。

それから、「可動機能と地域」ということで、これは人の動き、モノの動きがございしますが、空間自体を



スライド7 第10回越境地域政策研究フォーラム (地域システムコア)

動かしていくということで、当地域は自動車産業の集積が非常に多いですから、自動車自体を可動インフラ、可動都市と考えていこうという新しい試みです。このような研究を、自動車企業、ローカルシンクタンクと一緒におこなっておりますので、二つの視点でお話をいただきます。

それから、もう一つの分科会が地域システムコアです。先ほど申し上げたデータサイエンスからのアプローチです。具体的なテーマとしては、「まちなか賑わいの記録・創出」ということでご議論いただくことになっております。

デジタルミュージアムという文化的な側面、まちなかのつくり方、そのなかでのアプリを活用した展開の仕方。そして、デジタルアーカイブ。このようなデータサイエンス的な側面からのご議論をいただきます。

朝から夕方までになりますが、活発なご議論をいただけることを楽しみにしております。また、ご質問等をご参加いただいている皆さんにいただく機会もございますので、ぜひ活発なご質問、ご意見をお出しいただければありがたいと思います。それでは、よろしく願いいたします。

○司会：お待たせいたしました。それでは、これより東京大学大学院工学系研究科准教授の瀬田史彦先生より、「国土計画の可能性と越境地域計画」のタイトルで基調講演をいただきます。私より、簡単に瀬田先生のご紹介をさせていただきます。

瀬田先生は、1995年に東京大学工学部を卒業され、2002年に博士号を取得されました。2000年には、タイで客員助手や国際開発事業団での都市計画技術向上プロジェクト短期専門家を務められたほか、ドイツでの客員研究員、大阪市立大学大学院創造都市研究科などを経て、2012年より東京大学に着任されております。また、国の委員会の委員、複数自治体の都市計画審議会や公共施設・不動産活用事業の検討委員も務めておられます。

本日は、そうした豊富な経験を通じて、国土計画や越境地域計画について勉強させていただくことを楽しみにしております。それでは、瀬田先生、よろしく願いいたします。